

教育目標		命輝き 笑顔輝く 昆陽里小学校 一心豊かにたくましく生きぬく力を育てる						
重点目標		①一人ひとりを生かし、確かな学力学校の定着を図る ②学習する意欲や豊かな心を育む環境が整備された学校 ③家庭や地域と密接に結びついた開かれた学校						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 授業力の向上と授業の改善をめざした校内研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回は、漢字の小テストを行い、定着を図る。 全国的に使用されているワークテストを購入し子どもたちの力をよりよくみとる。 音読カードを工夫し、滞りなく音読できるようにする。 できる、わかる授業作りをすすめる。 全学年が算数科を中心に授業力向上のための授業公開を1回以上する。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字大テストで学年平均が80点を超える。 全体の平均点が85点を超える。 100字程度の文章を滞りなく読むことができる。 児童アンケートの「授業が分かりやすい」「先生は教え方を工夫している」で80%以上の回答。⑫⑭ 学力向上のための全校公開授業数が6回を超える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 平均を超えている学年もあるが、個人で見ると漢字の定着が難しい児童もいる。 平均点はこえていることが多いが、単元によっては、苦手が見える。 大半は、滞りなく読むことができているが、音読に困難を示す児童もいる。 90%以上の高回答であったが、次年度より新学習指導要領が実施されるので、授業作りの工夫が必要である。 6回の授業公開と1人1授業の公開があった。職員全体で学び合う空気をもっと高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習得方法に関する研修会をもち、多くの方法から児童にあった指導法を選択できるようにしていく。 継続してワークテストを採用するとともに、苦手が見えた単元については、必ず復習の時間を設ける。 指導法を工夫し、学校の授業の中で音読の機会を保障していく。 研究教科である算数を中心に新しい形の授業づくりに取り組んで行く。 授業公開に継続的に取り組むとともに、授業公開ウィークを復活させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だけでは基礎基本の徹底が時間的にむずかしく、高学年では反復練習を宿題にすることが多い。やり方を工夫して5分ばかり、2～3問の反復練習を取り入れるとよい。 朝のモジュールを実施したことにより、金曜日6校時はパワーアップタイムになっている。補充学習の時間が確保できている。 学力の2/3は学校、1/3は家庭でつけるもの。できる、わかる授業づくりの具体策がほしい。めあてを明確にし、振り返りを大切にすることが必要である。 放課後学習では、文字を丁寧に書くことを徹底している。名前や数字が雑では学力が定着しない。鉛筆の持ち方、目を見てあいさつするなど、具体的に指導しており、若い先生方にも参考にしてほしい。
	学習習慣の定着と読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を充実させ、家庭学習の定着を図る。 読書活動を充実させ、表現力・創造力の豊かな子どもを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の意識向上と保護者の関わりをより促すよう、がんばりカードの形式を改善する。 児童の興味関心を引き出すような図書の選定を行う。 二教室になった図書室の環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの「家庭において目安の時間～低30分、中60分、高90分～」で80%以上の回答。⑦ 児童アンケートの「進んで本を読んでいる」で90%以上の回答。⑧ 電子化が完了し、運営がしやすくなる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの「家庭において～」で68.5%の回答。前年より-3.7%。 学級担任、専科とも連携し、図書の選定を行うことができた。 図書委員、司書の先生が業間休みに本の整頓をしたり、委員会で作ったおすすめの本のポスター・帯を掲示した。 児童アンケートの「進んで本を読んでいる」で80%の回答。前年より-6%。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主学習の内容と、ノートの使い方を例示し、進んで自主学習に取り組めるように促す。 これだけ読んだという目に見える評価が必要。(読書調べ期間に1冊本を読んだら1つシールを貼るなど) 学年、クラス単位で読書冊数が多い児童の表彰を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校で60分家庭学習しない子がいる。小学校での習慣づけが大切である。 家庭学習の定着として、高学年では90分を目標に机に向かう。宿題をするだけでなく、主体的に机に向かう動機付けがあるとよい。
豊かな心	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「心の教育」を推進する。 いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童会によるあいさつ運動を推進する。 学校朝礼で生活目標の啓発をする。 人権学習を実施する。 年3回アンケートを実施し早期に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「あいさつをしている」で90%以上の回答。④ 児童の80%以上が生活目標を言える。 児童アンケートで「自分を大切にすることや、人にやさしくすることができている」で90%以上の回答。⑧ 児童アンケートの「学校へ行くのが楽しい」、「学校行事は楽しい」で90%以上の回答。①③ 	A	<ul style="list-style-type: none"> あいさつをする児童が増えたが、児童アンケートの「あいさつをしている」では82.7%の回答。前年より-8.6%。 児童アンケートで「自分を大切に～」で91.9%の回答。前年より+0.1%。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表委員による挨拶強化週間などに取り組む。 今後も人権、道徳学習や、子どもに寄り添う指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域であいさつをする子が増えている。大事なことなので続けてほしい。 「学校が行くのが楽しい」と感じるの、学校においては学習がわかるということだと思う。
	健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 健康的な生活習慣を育む態度を育てる。 児童の健康の保持・増進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間に身体を動かす機会、場を設定する。 こやチャレを計画・実施する。 ドッジボール大会を計画・実施する。 雨天時に体育館を開放する。 歯磨きカレンダーを活用して歯磨きの習慣をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「業間は外遊びをしている」で80%以上の回答。⑮ 保護者アンケートの「学校は子どもの体力向上や心身の健康のための取り組みを行っている。」で90%以上の回答。⑩ 歯みがきカレンダー表彰で、全クラス中80%のクラスが年間1回以上表彰される。⑪ 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「業間～」で61.5%の回答。前年より-19.1%。 去年より業間休みが5分短くなり、行事の精選のため、外遊びの計画・実施が難しくなっ 水曜日の昼休み30分を利用したこやチャレは、クラス単位で全学年が参加できた。 保護者アンケートの「学校は～」で89.5%の回答。 教師が児童と一緒に外遊びに参加する機会が減っている。時間がとりづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な準備で、安全で手軽に取り組める計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 業間・昼休み、子どもたちは外でよく遊んでいる姿をよく見かける。 こやチャレを昼休みに移行して実施している。外遊びがクラス単位できている。 指標が実態に合っていない感じがする。指標の見直しが必要。

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・学校便りを月1回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを毎日1回更新する。	・学校便り、学年便りを月1回以上発行する。 ・学校ホームページを毎日1回更新する。 ・学年ごとに月に3回更新する。 ・保護者アンケートの「学校便りやホームページなどを通して～」で90%以上の回答。⑬	A	・学校便り、学年便りを月1回以上発行できた。 ・学校ホームページを毎日1回以上更新することができた。 ・今年度、ホームページへのアクセスが21万件以上あり、一日平均600人以上の閲覧があった。 ・学年に更新頻度の偏りがあった。 ・保護者アンケートの「学校便りや～」で95.4%だった。 ・ネットの危険や、インフル対応、臨時休校、運動会の開催についてなど、臨機応変の内容を発信できた。	・保護者アンケートの「学校便りや～」が昨年度に比べ、-2.4%と減少していた。そのため定期的に更新する機会を設定して、内容の一層の充実を図る。	ホームページの来場者数が、20万人を超えている。宿泊行事の時は、タイムリーに情報発信していることが効果的である。 ホームページの更新については、偏りなく組織的に取り組むとよい。
	学習環境の整備	・学習環境の整備を行う。	・清掃週間等を活用しながら、清掃指導の徹底を行う。 ・委員会活動を通して、児童への清掃指導を行う。 ・教育活動に必要な教室不足を解消させる。	・保護者アンケートの「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」で90%以上の回答。⑩ ・教育活動に必要な教室が不足しているため、今年度中に増床を要求し続ける。	A B	・保護者アンケートの「学校は学習の場～」で93.0%だった。前年より+3.4%。 ・担当部局による施設訪問の際に状況説明し、要求した。	・清掃用具の改善と購入。 ・環境美化委員と連携して清掃指導を続ける。 ・施設の拡充を要求し続ける。	
	地域との連携	・地域との交流を図る。	・学校公開日・運動会作品展等行事の公開、参観授業等を実施し、地域との交流を深める。 ・学校運営協議会の設置 ・地域の水田ビオトープで決められた学年が米作り体験を行う。 ・こやっ子グリーンサポーターズを中心に学校の植木や花壇等の環境整備を保護者と共に行う場をもつ。	・保護者アンケートの「地域に開かれた学校だ」で85%の回答。⑮ ・協議会を年3回実施する。 ・代掻き、田植え、稲刈りの体験活動を行う。 ・花壇の花々の植え替えや土壌改良を保護者と共に学期に1回以上行う。	A	・保護者アンケートの「地域に開かれた～」で92%の回答。 ・発達段階に応じた米作り体験を全行程実施できた。 ・ボランティアを募っての環境整備を毎学期実施した。また、こやっ子グリーンサポーターズが花壇等の手入れを日常的に行っている。	・保護者、地域住民の理解、協力が一層すすむように情報発信していく。	学校ボランティアとして、読み聞かせのリード、緑化整備のグリーンサポーターズが計画的、継続的に支援できている。 グリーンサポーターズがクラスに一鉢、手作りの育て方テキストをつけてプレゼントしてくれている。
保護者との連携	・行事の公開、懇談会、参観授業を充実する。	・懇談会の内容の精選と内容の充実を目指す。 ・参加しやすいように日程を組む。 ・PTA学力向上委員会と連携し、学習習慣を身につけさせる。	・保護者アンケートの「学校は家庭と連携している」で90%以上の回答。⑫ ・資料を配付し、啓発をはかった。	B	・保護者アンケートの「学校は家庭と～」では81.9%の回答。 ・家庭訪問を希望制、ポスティングに変更した。 ・家庭学習ががんばり週間を設定し家庭学習の啓発を行った。	・去年度と変わった希望制の家庭訪問をより分りやすくし、浸透させる。 ・学年だよりなどを通じて、家庭学習習慣の周知、みんなの学習クラブの啓発を行う。	学級懇談会への参加を増やすことが課題である。 懇談会に参加するメリットが目に見えてわかるように工夫が必要である。先生方は気を遣って早く終わらそうとせず、くつろいで話せる場づくりをするとうい。 OJTを実施して、参加の多い教員から成功体験を共有するとうい。 懇談会は、親同士が知り合う貴重な機会である。	
学校関係者評価総括	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上に向けては、学校の責任が大きい。「できた・わかったと思える学び」の実現に向けて、家庭と連携を深めながら取り組むことが重要である。 ・子どもたちがおかれている家庭環境の差が大きくなる中ではあるが、中学校へ向けるとは、学習習慣の定着を図ることが重要である。 ・「学校へ行くのが楽しい。明日も行きたい」と思える児童が増えることを望む。そのためには、学校での学びの時間が重要となってくる。 ・学校は保護者が懇談会等に参加することのメリットを考えるとともに、子どもたちの成長に向けて、ざっくばらんに話せる場づくりが必要である。 ・子どもたちのよりよい成長のためには、学校、家庭、地域が連携して行っている行事は大切である。 ・教職員一人一人が力を発揮できる「チーム昆陽里」を目指し、昆陽里小学校ならではの学校運営を進めることを望む。 							

重点年度に改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図るとともに、主体的で対話的な学びを通して子どもたちが意欲的に学習に参加できるよう「わかる授業づくり」に努める。 ・学校と家庭との連携を深め、生活習慣、学習習慣、読書習慣を身につけさせる。 ・あいさつ運動、廊下階段での右側通行、ポリウムゼロの推進など、学校における基本的な生活習慣の徹底を図る。 ・こやチャレやドッジボール大会などの取り組みにより外遊びをとおしての体力作りの推進。 ・開かれた学校となるよう学校だより、ホームページ、学年・学級通信で学校の情報発信を積極的に行う。 ・保護者や地域の参画を促す教育活動の実施や地域交流への積極的な参加に努める。
----------	--

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標通りに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った